

第19回運営企画検討会	資料1
書面開催	

令和2年度の事業実施状況

広島祈念館 1頁～11頁

令和2年度 国立広島原爆死没者追悼平和祈念館の事業実施状況

1. 入館者状況

開館（平成14年8月）以来、令和3年3月末までの入館者数は、4,662,231人となっており、同期間の平和記念資料館入館者（24,479,594人）の19.0%である。【過去3年間の月ごとの入館者数を10ページに記載】

（参考）年度別入館者数

区分	入館者数	1日平均入館者数	対前年比	外国人（内数）	
				入館者数	対前年比
平成30年度	433,912人	1,195人	108.0%	159,312人	136.8%
令和元年度	379,163人	1,142人	87.4%	145,233人	91.2%
令和2年度	69,413人	280人	18.3%	4,195人	2.9%
累計	4,662,231人		—	—	—

※ 外国人入館者数とは、総合案内において外国語版のリーフレット又はチラシを配布した人数を集計している（平成24年度から集計開始）。

※ 令和2年度は新型コロナウイルス感染予防及び拡散防止のため、4月1日から5月31日まで、12月14日から令和3年2月7日までの2回（61日と54日 計115日）臨時休館した。

2. 原爆死没者の氏名・遺影の登録・公開

広島県内各市町での葬祭料給付申請時や、平和記念式典への参列案内時に遺影登録の案内をするほか、8月6日に原爆死没者名簿への登載確認等との共同窓口を設置している。

また、被爆者証言ビデオの収録や被爆体験記執筆補助事業などの機会をとらえ、登録申請を呼びかけた。さらに、著名人の遺影登録に際し、マスコミに情報提供するなど遺影登録の周知を図った。

（参考）年度別登録状況

区分	原爆死没者数（登録数）	対前年比
平成30年度	677人	94.8%
令和元年度	769人	113.6%
令和2年度	650人	84.5%
累計	24,439人	—

3. 被爆体験記等の収集・整理・公開

被爆者の高齢化に加え、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、新規収集が困難な状況となったが、広報紙への掲載やマスコミへの情報提供のほか、被爆者証言ビデオ収録などの機会をとらえて被爆体験記の提供を呼びかけるとともに、体験記執筆補助事業（平成18年度開始）により収集に努めた。また、新聞等に掲載された被爆体験記の記事を確認し、発行者等へ照会して、寄贈又は購入の依頼を行った。

収集した被爆体験記については、より一層の活用を図るため、データベース化、イメージデータ化及びテキストデータ化を推進し来館者の利便性の向上を行った。

(参考) 年度別被爆体験記収集状況

区分	体験記収集数 (編)					図書収集 (冊)		公開数 (編) (注1)
	H7 厚生省	H17 厚生省	H27 厚生省	独自収集	計	購入	寄贈	
平成30年度	0	0	0	33	33	140	71	39
令和元年度	0	0	-5	74	69	142	83	139
令和2年度	0	0	-17	56	39	126	85	219
累計	81,205	11,778	11,329	3,435	107,747	2,127	3,186	147,642

(注1) 被爆体験記として収集後、内容を整理・精査し登録対象外とする場合があり、また収集年度と公開年度が異なる場合があるため、各年度の収集数と公開数は一致しない。

(参考) 被爆体験記のデータベース化等の進捗状況

区分	編数	割合
館内公開体験記数	147,642	—
データベース化 (注2)	140,995	95.5%
イメージデータ化 (注3)	107,683	
テキストデータ化 (注4)	2,547	

(注2) データベース化とは、来館者が閲覧を希望する被爆体験記を容易に検索できるよう、被爆体験記に書かれている情報に基づき、被爆者の氏名、年齢、所属及び被爆場所、登場する人物、場所及び時期などを、職員が分類・整理し、システムに登録する作業をいう。

(注3) イメージデータ化とは、館内公開している被爆体験記を、展示端末画面で容易に閲覧できるように、被爆体験記をスキャンしてシステムに登録することをいう（平成24年度から実施）。

(注4) テキストデータ化とは、被爆者が手書きで書いた被爆体験記を読みやすく、また、将来、多種多様なキーワードにより検索が可能となるよう、被爆体験記を文字入力する作業をいう（平成24年度から本格的に実施）。なお令和2年度2,547編 令和元年度2,288編 平成30年度1,943編

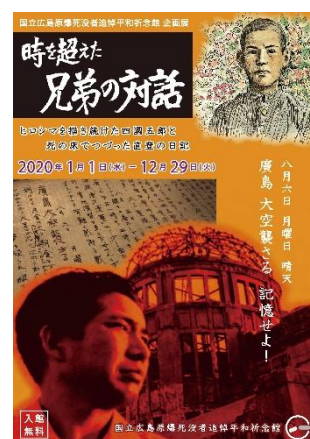
4. 企画展の開催

情報展示コーナー（地下1階）において、毎年定めるテーマに沿って企画展を開催する。関連資料を展示し、被爆体験記をディスプレイで閲覧できるようにするとともに、被爆者の証言映像及び被爆者自身が描いた「原爆の絵」等を交えた映像作品を制作し上映する。また、映像資料はインターネットに掲載するとともに、平和学習資料としてDVDや資料の貸出を行っている。

- (1) 「時を超えた兄弟の対話 ―ヒロシマを描き続けた四國五郎と死の床でつづいた直登の日記―」

期間：令和2年1月1日(水)～令和3年2月28日(日)

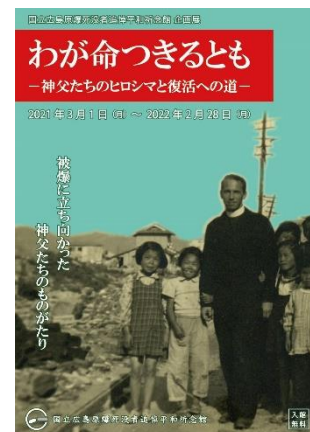
概要：画家としての才能を、反戦・核兵器廃絶を訴えることに全て捧げた四國五郎（1924-2014）。そのきっかけは、最愛の弟・直登（1927-1945）が原爆により18歳で短い生涯を閉じたことだった。企画展では、被爆当日から亡くなる前日まで、病床でつづられた弟・直登の日記を中心に、兄・五郎の追悼文や作品を紹介しながら、時を超えた2人の対話を再現した。（3面シアター映像約30分、四國直登の日記（現物）と四國五郎実作品約20点、館長論文及び四國五郎の追悼記、作品集等）



- (2) 「わが命つきるとも ―神父たちのヒロシマと復活への道―」

期間：令和3年3月1日(月)～令和4年2月28日(月)

概要：被爆当日、イエズス会の幟町教会（爆心地から約1.2キロ）にいた4人の外国人神父たちの被爆後の状況を克明に描いた体験記等を通して、ヒロシマの復活への道をたどる。



5. 被爆体験記執筆補助

体験記を残す意欲がありながら高齢等により体験記の執筆が困難な広島県内の被爆者を対象に、職員による聞き取りと代筆を行った。(平成18年度開始)

(参考) 年度別実施状況

区分	応募数	実施者数	辞退数 (体調不良等)
平成30年度	9人	8人	2人
令和元年度	13人	11人	3人
令和2年度	9人	6人	4人
累計	185人	160人	27人



被爆当時の地図などを見ながら被爆体験を聞き取りします

※ 平成30年度及び令和元年度の実施者には前年度応募者1名ずつ含む。

6. 被爆者証言ビデオ(国外在住被爆者)制作

令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、国外における収録対象者の確保が困難であったことから、制作できなかった。

(参考) これまでの年度別制作状況

区分	国・地域	実施人数
平成30年度	韓国(1人)、アメリカ(5人)	6人
令和元年度	アメリカ(5人)	5人
令和2年度	実施していない	0人
累計	韓国(34人)、台湾(4人)、アメリカ(18人)、アルゼンチン(1人)、オーストラリア(1人)、カナダ(2人)(うち1人は日本語、英語で2本収録)、ブラジル(5人)、メキシコ(2人)	68人 (68本)

7. 被爆者証言ビデオ（広島県外在住被爆者）制作

被爆者団体等から推薦された被爆者を対象に、長崎祈念館と協力（長崎被爆者6人は長崎祈念館が収録・編集を担当）し、その体験談をビデオに収録（令和2年11～12月）し、編集作業を行った。制作した証言ビデオについては、令和3年4月から館内の体験記閲覧室で公開する。



カメラを前に被爆体験を語ってもらいます

（参考）年度別制作状況

区分	実施人数	収録都道府県
平成30年度	10人	北海道4人、岩手1人、福島1人、東京4人
令和元年度	18人	福島1人、埼玉2人、東京3人、神奈川8人、愛知4人
令和2年度	5人	京都1人、大阪1人、兵庫3人
累計	384人	45都道府県で収録（広島県及び長崎県を除く。）

8. 多言語化対応事業

海外から来館するさまざまな国や地域の人に、母国語で被爆の実相を伝えるため、令和2年度は被爆者証言ビデオの証言内容を英語、中国語、韓国・朝鮮語、アラビア語、スペイン語、ドイツ語、ハンガリー語、ヒンディー語、ポーランド語、ポルトガル語の10言語に翻訳した。（証言ビデオの字幕翻訳言語数は23言語）

また、被爆体験記をノルウェー語に翻訳した。（被爆体験記の翻訳言語数は24言語）
（多言語化の詳細を11ページに記載）

9. 被爆体験記の朗読事業

収集した被爆体験記を活用し、戦争や原爆の恐ろしさ、平和の大切さを語り継ぐことを目的に平成 17 年度から実施している。修学旅行生や市内の学校などを対象とした朗読会、毎月第 3 日曜日に開催する定期朗読会、8 月 5 日、6 日の朗読会、市内近郊への出前朗読会も開催した。また、全国で朗読会を開催したいとの要望に応えるため、朗読セットを国内 11 団体へ貸し出しした。



広島市内での朗読会

※ 新型コロナウイルスの影響により、来日する外国人が減少したことから英語での朗読会は当面開催を中止している。

(参考) 年度別開催状況

(単位：回)

区分	広島市内	定期	集中開催 8月5日~6日 5月3日~5日	原爆展	英語朗読 (英語定期 含む)	計
平成 30 年度	125	24	13	国内 5 海外 1	51	219
令和元年度	94	22	13	国内 2 海外 2	41	174
令和 2 年度	32	14	4	開催なし	※ 0	50

10. 被爆体験伝承者等の派遣

被爆の実相、平和への想いを日本全国の次世代に語り継ぐために、「被爆体験伝承者」と「被爆体験記朗読ボランティア」を、平成 30 年度から国内の学校等へ無料で派遣し、被爆体験伝承講話及び被爆体験記朗読会を実施している。令和 2 年度から「被爆体験証言者」の派遣を開始した。

令和 2 年度は、新型コロナウイルス感染対策を行った上で全国に 250 件（証言講話 28 件 伝承講話 202 件 朗読会 20 件）派遣した。この派遣による講話及び朗読会において延べ約 3 万 3 千人の児童・生徒等が聴講した。

(参考) 地域別派遣件数

(単位：件)

区分	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国	四国	九州	計
件数	1	4	48	24	120	30	17	6	250

(参考) 申込団体別派遣件数及び聴講者数

(単位：件・人)

区分	小学校	中学校	高等学校	大学	自治体	その他	計
件数	135	68	31	0	10	6	250
聴講者数	12,216	11,214	6,918	0	2,337	219	32,904

1.1. 被爆体験伝承者等に対する語学等の研修

被爆体験伝承者等の海外派遣を行わなかったため、語学力の向上を図るための研修については実施しなかった。

1.2. 修学講習の実施

被爆体験の次の世代への継承と平和意識の高揚を図るため、修学旅行などで広島を訪れた児童・生徒等を対象に、被爆者による被爆体験講話等を内容とする講習を追悼平和祈念館研修室で行った。

(令和2年度実施状況)

区 分	小学校	中学校	高等学校	その他	計
件数	29	9	4	15	57
聴講者数	606	257	120	280	1,263
1団体あたりの平均聴講者数	20.90	28.56	30.00	18.67	22.16

1.3. 広島平和学習セミナーの開催

平和学習を目的とする多くの修学旅行生に来館してもらうため、広島市と共同で学校関係者及び旅行会社（教育旅行部門）を対象に、広島での平和学習や体験学習などを紹介する広島平和学習セミナーを開催することとしていたが新型コロナウイルスの影響で開催できなかった。

(参考) 年度別開催状況

区分	開催都市		参加者
平成30年度	東京都（新宿）	平成30年7月24日	28人
	東京都（秋葉原）	平成30年7月25日	22人
令和元年度	東京都	令和元年8月21日	25人
	名古屋市	令和元年8月22日	13人
令和2年度	開催していない		

14. インターネットによる情報提供

広島祈念館の事業内容を、ホームページで広く情報提供するとともに、外部提供について同意の得られた被爆体験記及び被爆者証言ビデオを、順次、ホームページ（平和情報ネットワーク <http://www.global-peace.go.jp/>）に掲載し情報発信した。

また、スマートフォンやタブレット端末等の普及、多言語による情報発信、セキュリティ強化等に対応するため、ホームページを全面リニューアルした。

（参考）ホームページ公開状況

11 インターネットによる情報提供		グローバルネットワーク（平和情報ネットワーク）掲載本数及び編数 ※長崎分含む											
区分	被爆体験記						証言ビデオ						
	H28年度 まで	H29年度	H30年度	H31年度	R2年度	総掲載編数	H28年度 まで	H29年度	H30年度	H31年度	R2年度	総掲載本数	
1	日本語	516	48	277	26	49	916	554	25	32	27	39	677
2	英語	108		25	20		153	142	8	6	6	1	163
3	中国語	79		23	13		115	140	7	9	2		158
4	韓国・朝鮮語	79		23	12		114	143	8	17	2	1	171
5	アラビア語	9					9	5		1	1	1	8
6	イタリア語	9					9	8		2		1	11
7	インドネシア語	9					9		5				5
8	ウルドゥー語	9					9	5					5
9	オランダ語	6		3			9	6					6
10	ギリシャ語	6				3	9						0
11	クロアチア語						0	1		1	1	1	4
12	スウェーデン語	9					9	3					3
13	スペイン語	9					9	8	2	2		2	14
14	スロベニア語						0	3	1	2			6
15	タイ語	9					9	3					3
16	ドイツ語	9					9	25	2	7	4	3	41
17	ノルウェー語			5		4	9						0
18	ハンガリー語		2				2		1	4	1	2	8
19	ヒンディ語	9					9	3		1		1	5
20	フィリピン語	9					9		3				3
21	フィンランド語	6					6						0
22	フランス語	9					9	22	7	3	3	1	36
23	ベトナム語	6		3			9						0
24	ポーランド語	9					9		1	1		1	3
25	ポルトガル語	9					9	7		2		1	10
26	マレー語	9					9	3					3
27	モンテネグロ語		2				2						0
28	ロシア語	9					9	8	1	1	1		11
	合計	941	52	359	71	56	1,479	1,089	71	91	48	55	1,354

（参考）平和情報ネットワーク総アクセス件数

区分	総アクセス件数
平成30年度	5,780,021
令和元年度	5,526,862
令和2年度	3,978,834

15. 情報展示システムの保守・管理並びに展示整備基本計画の策定

来館者へのサービス向上及びシステムの安全性・信頼性を確保するため、情報展示システムの保守・管理を行った。

また、中長期的観点からシステム・展示更新の視点も含めた「情報システム機器更改・展示整備基本計画」を長崎祈念館とともに策定した。

16. 来館者増加対策等

感想ノート等により、来館者の声に耳を傾け、来館者サービスの向上を図るとともにあらゆる機会を捉え、広報紙、ホームページや新聞等のマスコミを通じてPRに努めた。

17. 新型コロナウイルスの感染拡大防止に向けた取り組み

臨時休館：2回 115日

令和2年 4月 1日から5月31日まで（61日）

令和2年12月14日から令和3年2月7日まで（54日）

開館期間中は次のとおり対策を講じた

- ・南側出入口を入口専用、北側を出口専用とし、一方通行の動線とした。
- ・入館の際、検温、手指消毒を実施。
- ・展示端末の稼働を38台から20台に減らし、ヘッドホンは使用禁止とした。
タッチパネルを操作する際に手指消毒を実施。